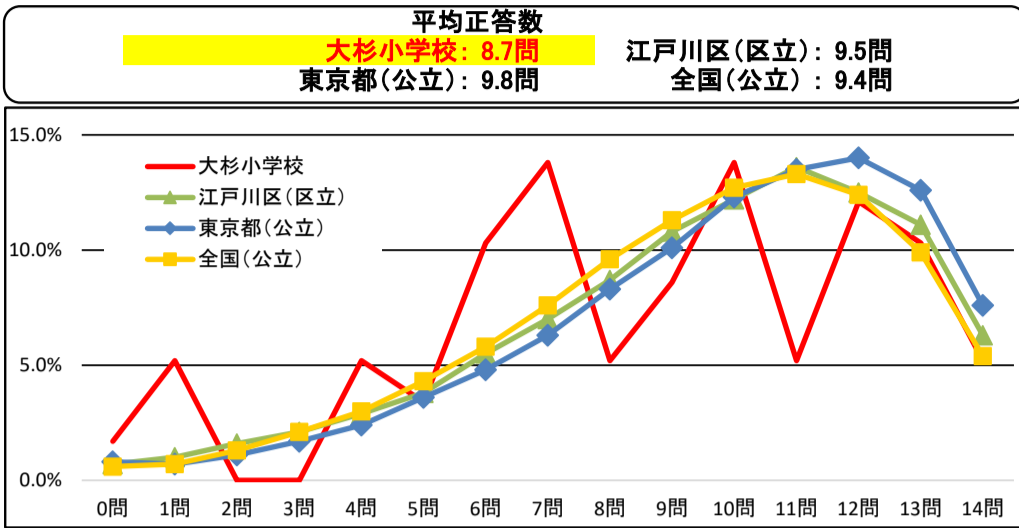


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立大杉小学校

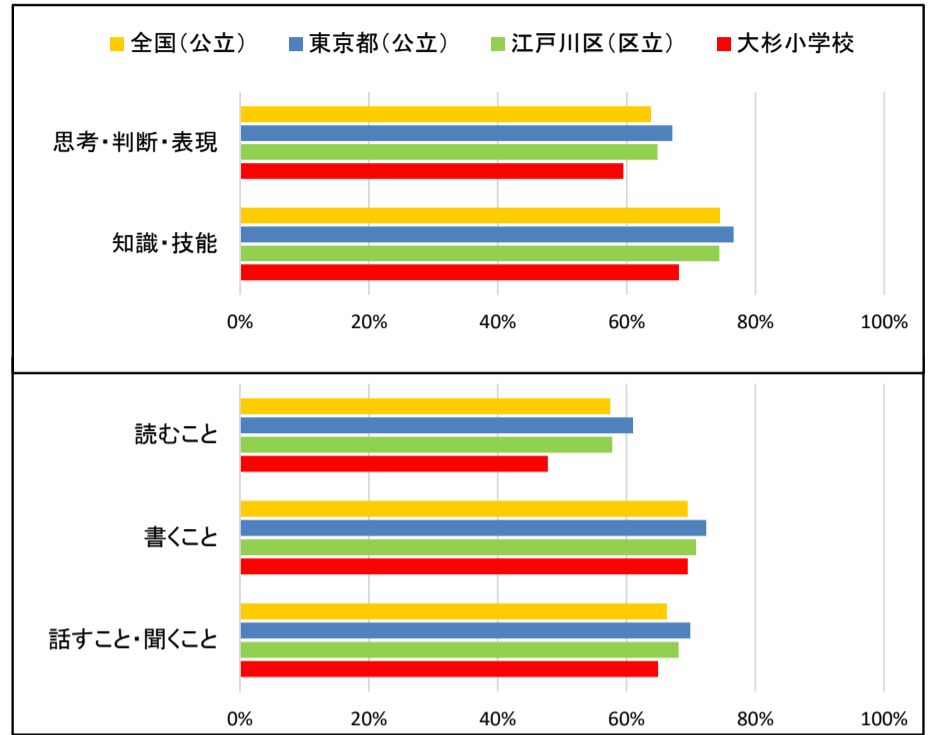
## 正答数分布



【平均正答率の差】

大杉小学校	62%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-8.0

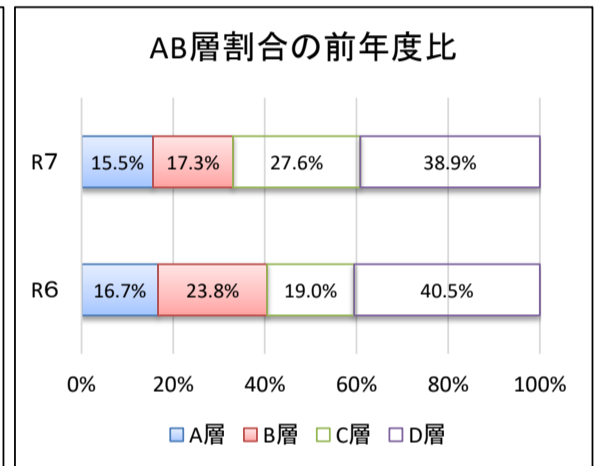
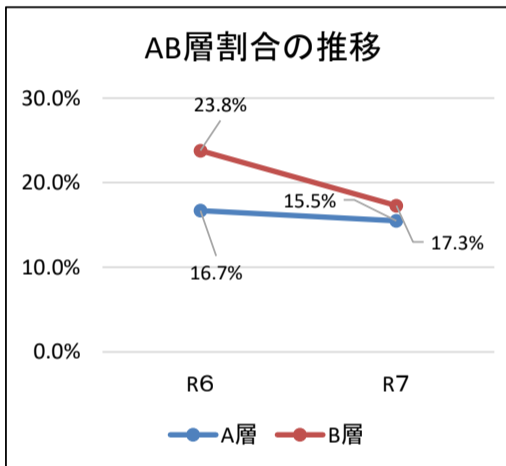
## 「領域別」の結果



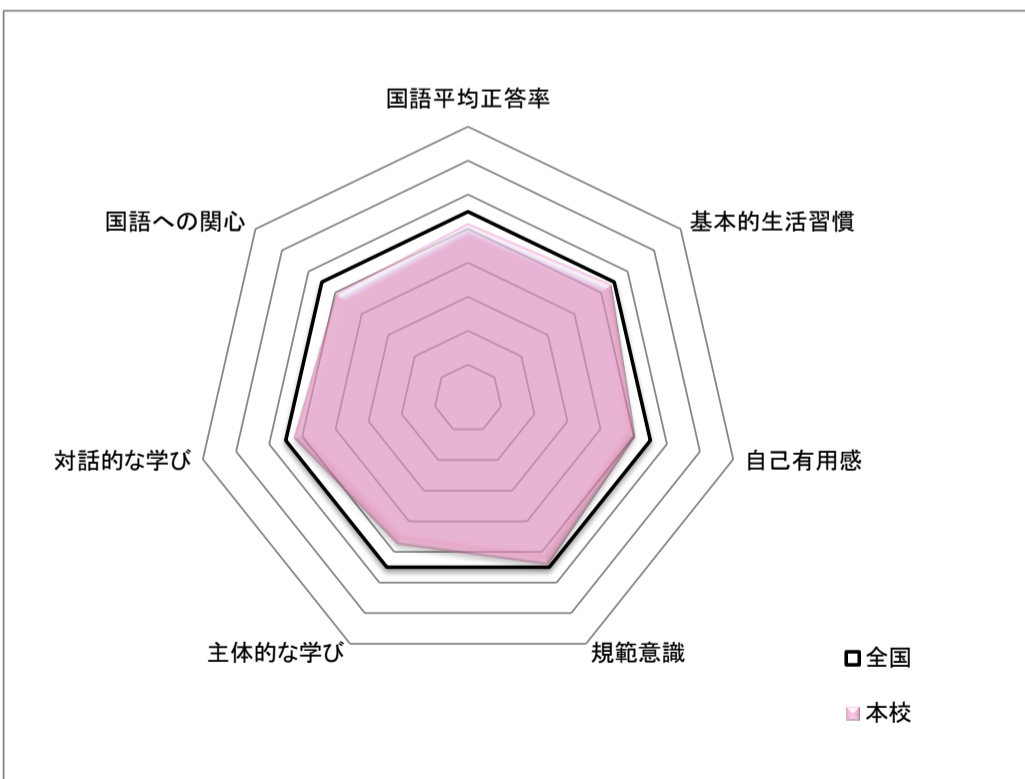
## 四分位における割合(都全体の四分位による)

国語	上位 ← 下位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
大杉小学校	15.5%	17.3%	27.6%	38.9%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

- ・「規範意識」は全国平均を上回っている。
- ・「基本的な生活習慣」は全国平均並み。
- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「国語への関心」は全国平均に比べて下回っている。

対応策→児童の関心を高め、主体的・対話的な学びとなるような授業づくり  
 ・「自己有用感」は全国に比べ下回っている。

### 《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者会や学校だより等でこの結果を伝え、学校と家庭及び地域が協力して学力向上を図れるようにしていく。
- ・江戸川っ子Studyweek!や学習カルテ等でICTを活用する。ミライシードを家庭で取り組むようにする。

### 《現状把握》

#### <成果>

- ・D層が前年度に比べて1.6%減少していることから、学力低位層への学力向上策が一定の効果があったと考えられる。
  - ・「書くこと」が全国平均の得点率であることから、「書くこと」に重視した取組の効果が出始めている。
- #### <課題>
- ・AB層の割合が減り、C層の割合が増加した。
  - ・「読むこと」の正答率が全国平均より著しく低い。
  - ・「思考・判断・表現」の正答率が60%に達していないことから、自分の考えを表現することを苦手とする児童が多いと考えられる。

#### 《学校の取組》

##### ・教員の指導力向上

- ・児童が「できる、分かる、楽しい」と思える授業改善をする。
- ・主体性を引き出す授業の導入を工夫する。児童の生活と国語科を関係付け、言語への関心を高める。
- ・個の考えを構築させた上で、対話的な学習を取り入れる。(ペアやトリオなどの話し合い活動を取り入れ、他者の考えに触れながら思考力や表現力を高めさせる。)

##### ・基礎学力の保障

- ・授業で漢字や語彙に触れながら語彙力等の定着を図る。
- ・放課後補習教室EDOスクの実施。
- ・校内漢字検定の実施。下学年の漢字を書く力の定着を図る。(1年生においては平仮名・片仮名検定を実施する。)
- ・視写や音読など学年に応じた取組を推進する。

##### ・学習習慣の確立

- ・江戸川っ子StudyWeek!や学習カルテ、長期休業中の課題でのICTの活用を図る。
- ・家庭や地域と協働した家庭学習や放課後学習の取組の質を上げる。
- ・自らの学びを実感できるめあての設定と振り返りの徹底を図る。
- ・家庭学習と授業の接点を明確にする。

##### ・AB層の育成

- ・校内放課後補習「ぐんぐんタイム」の実施により、学力の底上げを図る。
- ・読書感想文や調べる学習コンクール、新聞感想文コンクール等への積極的な参加を促す。
- ・A層には表現活動、B層には考え方の型を重視した指導を行う。
- ・ミライシード「ドリルパーク」で個人に適した問題を設定することで、個別最適化を図る。